

水彩画教室 「能取岬／北海道オホーツク海」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

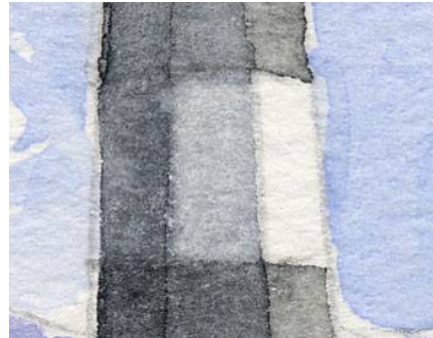
岬の灯台というと 断崖絶壁に立つ孤高の守護神のような印象があります 確かにそういう灯台が多いのですが この能取岬(のとりみさき または のとりみさき・のっとりみさき)はちょっとちがひ 「草原の中の灯台」です 網走市の北西のオホーツク海に飛び出した能取岬は 遠くから見ると 確かに断崖絶壁の地形です しかし崖上は平坦な地形で ほとんど起伏のない道路を進むと その行き止まりに灯台があります 晴れた日なら遠くに知床連山を見渡す 最果ての草原の灯台です 白い花は本州の山地に多い「シシウド」に似ていますが 北海道にシシウドの自生はなく これは「エゾニュウ」といいます 「のとり(ノ・オロ)」はアイヌ語で「岬の場所」の意味です



これが完成した絵です



1、積雲は白く塗り残して 左と下に影をつけて 立体的に



4、多角柱の灯台の立体感は 多段階に影をつけることで表現します



2、積雲は雲底は平らなのが特徴です 雲頂はモクモクと



5、エゾニュウは白く残して あとから少し影をつけます



3、灯台の頭部 右側から光が当たっていると意識して



6、灯台下の建物と 遠くの白い花 広々とした雰囲気表現します